

## 心をひとつに ～助け合いながら学び、絆を深める大切な瞬間～

広島市立長束小学校 対象学年（5年）

体験活動の種類 **社会奉仕** **自然**

体験活動場所・宿泊場所 国立江田島青少年交流の家

### 【学校紹介】

○長束学区は、安佐南区の南端に位置し、安古市・沼田・佐東・可部・安佐の各地区への交通の要衝の地にある。東は国道183号線、西は山本川、南は太田川放水路に囲まれた平坦地で、JR可部線・国道・県道が南北に走っている。特に、昭和29年に工事の始まった国道183号線の開通で、長束の様子は大きく変わった。国道沿いには倉庫や工場、商店などが建ち始め、田畑が少なくなってきた。また、旧市内に接する地域として、長束に居住する人が急増した。



国道に接していた横田の校舎は、児童数の増加や騒音などの理由から、昭和43年に現在地に移った。人口はさらに急増の一途をたどり、児童数も1,493名を数えた。その後、昭和51年原南小学校と昭和59年長束西小学校とに新設分離し、平成16年には、創立130周年を迎えて、現在に至る。

近隣には、長束中学校や長束西小学校、広島文化学園大学、長束幼稚園、長束保育園、ひとみ幼稚園、まごころ保育園、祇園公民館、祇園西公民館などの教育施設があり、地域の教育に対する関心や理解が深く、長束小学校に寄せられる期待も大きい

本年度は、学校教育目標の「心豊かでたくましい子どもの育成」を達成するため、研究主題を「自ら感じ、自ら考え、自ら表現する子どもを育てる」と設定し、以下の3点に重点を置き、子どもたちに確かな学力を身につけさせることができるよう取り組んでいる。

- ・協同学習を取り入れ、目標を明確にした授業実践を行うとともに、定期的な振り返りを行うことにより、授業の充実を図る。
- ・長束タイムの実施により既習事項の定着を図るとともに、個々の児童のめあてにそった学習に取り組む。
- ・読書タイムの内容と実施のための具体的な計画をたて、読書の習慣を定着させる。

○校長名：森田 やす枝

○児童数（学級数）：507名（20学級 特別支援学級を含む）

○所在地：広島市安佐南区長束4丁目15-1

○電話番号：082-239-1764

○URL：<http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0964>

### 【体験活動のねらい】

- 体験活動を通して、自然に親しみ、自然を愛する心情を養う。
- 集団生活の中で、責任・協力・奉仕の精神を養う。
- 自分や友だちの良さを感じ取らせ、家族への感謝の心を養う。

## 【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
6～7月	事前活動 ○集団宿泊体験の意義, テーマ設定 ○学習テーマの設定, 班活動, 係活動	4	総合的な学習の時間	学校	担任 施設関係者
	○道徳 「かれてしまったヒマワリ」4-(3)	1	道徳	学校	担任
7月	集団宿泊活動(3泊4日) ○交流体験(老人ホーム) ○キャンプファイヤー ○カッター体験 ○海辺の生物観察 ○野外炊飯 ○選択プログラム (登山, ディスクゴルフ, 所内ビンゴ)	24	学校行事	国立江田島青少年交流の家	担任
9～11月	事後活動 ○体験活動の振り返り まとめ	2	総合的な学習の時間	学校	担任
	○テーマに基づく活動のまとめ ○成果発表会にむけての取組・資料作成	10	総合的な学習の時間	学校	担任
11月	体験活動発表会 ○「野外活動発表会」	1	総合的な学習の時間	学校	担任

## 【体験活動の概要】

### ○カッター研修

青少年交流の家の指導員の指導のもと、子どもたちは日常では経験のできない緊張感をもった研修を行うことができた。初めは、權を持つこともおぼつかなかった子どもたちであったが、仲間を意識し、声・力・タイミングを合わせ艇を進めた。活動を通して、仲間との協力・助け合いの大切さに気付き、絆を深めることができた。



### ○交流体験(老人ホーム)

高齢者との交流について、事前にお年寄りの状況を知り、常に相手意識をもちながら、どのように接するのが良いか、どのような活動を行うのが良いか考えた。当日は、それぞれの児童が相手の目線に立って話をしたり、ゲームや歌のプレゼントをしたりした。この活動を通して、お年寄りに対する思いやりの心を育てることができた。

### ○海辺の生物観察

日常ではあまり目にするのできない生き物を、実際に見て・触れて・感じるができる活動であった。初めは怖がって生き物に触れなかった児童も、慣れてくるとたくさんの生き物に触れていた。また、夜にはウミホタルの観察を行った。生き物や自然を大切にしようとする心を育てることができた。



## 【体験活動の効果を高める事後学習】

### ○総合的な学習の時間

体験活動での学びの振り返りにおいて、子どもたちはこれからの学校生活に生かしていきたい力を、あいさつ、自然、協力・助け合い、整理・整頓、時間、感謝の6つに話し合っまとめた。この力を学校生活に生かしていくためにグループで学習に取り組んだ。

#### <あいさつグループ>

長束小学校の児童が気持ちよく一日をスタートできるように、校門の前に立ってあいさつ運動を実施した。

#### <自然グループ>

これまで以上に自然に興味・関心をもってもらうために、長束小学校で見つけた生き物、植物などを5年生へ紹介した。

#### <協力・助け合いグループ>

音楽発表会でみんなが気持ちを一つにして演奏するために、グループの児童が中心となって音楽発表会のめあてを考え、各パートのリーダーとなって積極的に取り組んだ。

#### <時間グループ>

児童一人一人が次の活動を意識しながら時間を守るように、グループの児童が中心となってチャイムまでに席に座るよう呼びかけた。また、席に座ってチャイムを聞く「着ベル週間」を企画し、学年で実施した。

#### <整理・整頓グループ>

身の回りのものを整理整頓するために、整理整頓の方法を5年生に写真で紹介した。また、「整理整頓週間」を企画し、学年で実施した。

#### <感謝グループ>

自分たちを支えてくれている家族に感謝を伝えるために、家族への感謝を伝えようと啓発するポスターを書いたり、「感謝を伝えまシート」（家庭での手伝い、感謝を言葉で伝える）を考案したりし、学年で実施した。

体験活動で身に付けた力を学校生活に生かしていく際、それぞれのグループが意見を出し合い、どのような内容を行えば良いか考え、取組を進めていった。そして、取組後には体験活動発表会を行った。発表会后、児童から以下のような感想が出された。

- 取組は一回で終わらせるのではなく、続けていくことが大切である。
- 取組を続けて、立派な6年生になりたい。
- 5年生だけで取組を終わらせるのではなく、長束小学校全体に広げたい。

## 【交流先や施設等との連携】

○活動の目的にあったプログラムを作成できるよう、計画段階において、体験施設の担当者と打ち合わせを行ったり、事前調査、危険個所の確認等を行ったりした。

○活動プログラムの作成において、特別養護老人ホーム「誠心園」の職員や、さとうみ科学館の館長と連携を図った。



### 【評価の工夫】

○児童が活動の振り返りをしおりに書く際、内容が事実のみの記述にならないよう、「友だちの良いところ、心に残ったこと、明日自分が頑張りたいこと」の3つの観点を与えた。振り返りの観点を明確にすることで、児童は翌日の活動のめあてを考えやすくなり、教員も児童同士の人間関係の把握や翌日の支援・指導に生かすことができた。

### 【安全面の配慮事項】

- 緊急時の連絡方法や受入医療機関の確認を行った。
- 児童の事前健康診断を実施するとともに、食べ物やアレルギー調査、携行薬の確認を行った。
- 過密な日程にならないよう、プログラムを計画した。

### 【体験活動の成果と課題】

#### <成果>

児童アンケートの結果から、「相手の立場になって考えることができる」や「良いと思うことは自分から進んでやる」の2つの項目に対して、肯定的な意識を持つ児童が増えた。この結果から、他者理解が深まっ

たり自立心が芽生えたりしてきた。また、実施から5ヵ月後も2つの項目に関して高い評価が得られているのは、次の二点が考えられる。一つ目は、体験活動の効果を高めるために体験活動発表会を児童が中心となって計画・実施したこと、二つ目は、体験活動での学びを学校生活でも折りにふれ意識化してきたことである。

#### ○保護者の声

- ・夏にくらべ、最近では、自発的に何かを始めている姿をよく見かけるようになり、手助けしてくれることもふえた。
- ・目標に向かって努力をするようになった。
- ・自分一人でいろいろな事に挑戦してみようと思う気持ちが芽生えてきた。
- ・家族に対して以前よりも思いやりのある態度や行動をとる姿が見られるようになった。
- ・厳しいルールが何故あるのか理解して行動できるようになった。
- ・良いと思うことは、積極的に行動できるようになったと思う。
- ・友だちとの付き合いが上手になってきたように思う。
- ・人の良い面を見つけ、自分もそうなりたいと思うようになり、努力している。

#### <改善点>

- ・体験活動後、すぐに夏季休業に入ったため、夏季休業明けに体験活動と事後学習を結びつけることが難しかった。そのため、事後活動の進め方をより計画的に行うことで、事前・事後のつながりをもたせたものにしていく必要がある。
- ・11月実施の保護者アンケートでは、「体験活動を通して子どもが成長したと思う」という項目に、肯定的な評価が83.1%であった。多くの保護者が体験活動を通して、子どもの成長を感じていることがわかる。しかし、否定的な評価が16.9%であった。そこで、体験活動の学びを日々の生活に生かしていけるよう、指導の工夫を行っていく必要がある。

